

第18回冬季デフリンピック競技大会 Win Winter Medals Five!

太田陽介



第18回冬季デフリンピック競技大会は、2015年3月28日から4月5日までの9日間、ロシアのハンティマンシークス及びマグニトスクで行われました。冬季大会としては過去最多の27か国から692人が役員及び選手として参加し、5

競技（アルペンスキー・クロ

スコントリー・スノーボード・カーリング・アイスホッケー）が最高峰を目指し熱戦が繰り広げられました。日本からは、4競技

（アルペンスキー・クロスコントリー・スノーボード・カーリング）に全日本ろうあ連盟にて定めた基準を満たした22人の選手を選出し派遣しました。

今回の目標は、過去冬季大会で獲得した最高数のメダル4個を超え5個以上のメダルを獲得することとし

ました。各国チームの成長が著しい中、これは大変に厳しい目標でしたが、選手が新たな挑戦に挑む姿を見せることで青少年に冬季デフリンピックへの夢を与え、日本の私たち聴覚障害者や聴覚障害を取り巻く皆様に希望と感動を残せるよう大会に臨みました。

選手一同最後まで奮闘し、金3個、銀1個、銅1個、総メダル5個を得て、念願の目標達成ができました。絶えない笑顔とともに選手が表彰台に立ち、日の丸国旗が天高く揚げられた姿は、今なお私自身の脳裏にくっきりと焼きついております。

今大会にて私たちの取り組みが終わるわけではありません。この大会をきっかけに、新たな若手の選手が大会を目標にするよう道を築いていかなければなりません。4年後の大会に向け、選手強化事業として各競技における選手の技量向上のために、世界選手権などの国際的競技大会に積極的に派遣し経験を積ませることが課題であると考えます。また、聴覚障害者及び手話に対する社会からの理解を広げるためにも、聴覚障害者の選手やスタッフが一般大会にも参加して周りと交流を深めながら競技レベルを高めていくことが重要な課題であると考えております。

試合結果報告

栗野達人

今大会の派遣にあたっては、文部科学省をはじめロシア在日本大使館、日本パラリンピック委員会、現地スタッフなど多方面にわたってのご支援をいただき、心から深く感謝申し上げます。

(おたよつすけ 一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長、第18回冬季デフリンピック競技大会日本代表選手団団長)

太田団長からの報告にもあるとおり、今大会は冬季デフリンピック競技大会としては過去最高の規模になりました。昨今ではデフリンピックの開催地がなかなか決まらないなど、国際ろうあ者スポーツ委員会の組織力の低下がささやかれてい

ましたが、今大会は、まさに各国のろうあスリートやデフリンピックの底力を見せた大会となりました。

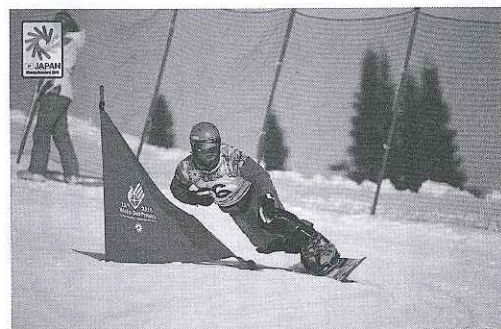
日本からは代表選手22人、スタッフ26人、現地スタッフ

が、2003年冬季デフリンピック競技大会から3大会連続金メダル獲得を成し遂げたことです。日本代表団のメダル第一号が3大会連続という偉業により、選手を勢いづかせました。この偉業に触発され、ハーフパイプ選手もメダル3個獲得となりました。

惜しくもメダルを取れませんが、メダルまで後一歩のベスト入賞も多数ありました。特に、男子カーリング競技

は初出場ながらも5位となりました。日本チームは初戦から5連続優勝を成し遂げ、初メダル獲得かと大いに期待を集めました。試合中の不本意な規則違反で5勝目を取り消され、それから不調になり残念ながら5位となりました。

冬季デフリンピックで一番歴史が長く、一番ハイレベルで難しいと言われていたアルペンスキー競技においても、日本選手が全員上位入賞を成し遂げました。特に、中村選手が



は初出場ながらも5位となりました。日本チームは初戦から5連続優勝を成し遂げ、初メダル獲得かと大いに期待を集めました。試合中の不本意な規則違反で5勝目を取り消され、それから不調になり残念ながら5位となりました。

メダル・入賞者一覧

種目	選手名	記録	備考
スノーボード大回転	原田 上	トーナメント方式	13名出場
スノーボード回転	原田 上	トーナメント方式	11名出場
スノーボードハーフパイプ	花島 良子	83.3	8名出場

種目	選手名	記録	備考
スノーボードハーフパイプ	大川摩耶子	69.7	8名出場

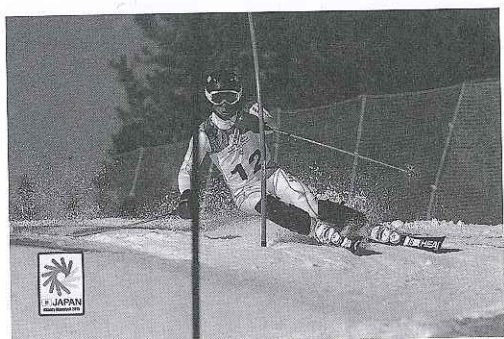
種目	選手名	記録	備考
スノーボードハーフパイプ	津久井康友	81.0	13名出場

国別参加選手数・メダル獲得ランキング

順位	国名	選手数		役員数	総数	金	銀	銅	計
		男	女						
1	ロシア	53	23	81	157	12	6	12	30
2	チェコ	6	2	12	20	6	1	0	7
3	アメリカ	28	4	17	49	3	3	2	8
4	イタリア	6	1	11	18	3	2	0	5
5	日本	16	6	28	50	3	1	1	5
6	スイス	8	1	11	20	1	3	0	4
7	フランス	3		4	7	1	1	3	5
8	中国	13	9	14	36	1	1	2	4
9	フィンランド	21	1	14	36	1	1	0	2
10	ウクライナ	10	10	19	39	0	5	3	8
11	オーストリア	4	3	9	16	0	4	5	9
12	カナダ	27	6	29	62	0	2	1	3
13	ノルウェー	2	1	8	11	0	1	0	1
14	スロベニア		1	5	6	0	0	1	1
14	ドイツ	5		7	13	0	0	1	1
16	エストニア	1		2	3	0	0	0	0
16	クロアチア		5	5	10	0	0	0	0
16	アルメニア		1	2	3	0	0	0	0
16	カザクフスタン	19		5	24	0	0	0	0
16	スロバキア	2	5	6	13	0	0	0	0
16	スペイン	3		4	7	0	0	0	0
16	トルコ	6		7	13	0	0	0	0
16	ポーランド	3	1	7	11	0	0	0	0
16	パキスタン	2		5	7	0	0	0	0
16	韓国	7	7	29	43	0	0	0	0
16	モンゴル	1		3	4	0	0	0	0
16	ハンガリー	5	6	4	14	0	0	0	0
	総数	251	93	348	692	31	31	31	

回転種目で3位とわずから0・18秒の僅差でメダルを逃し、大変悔しい思いを味わいました。

クロスカントリースキーも体力消耗が激しい競技であり、リタイアする選手も多し。日本選手全員は完走を成し遂げました。しかし、クロスカントリー競技はヨーロッパ勢が非



常強く、残念ながらも入賞には届きませんでした。最後までもあきらめずに完走を成し遂げた日本代表選手は、ゴール地点で会場から大きな拍手が送られました。大会に向けて各競技チーム内で選手の強化に取り組み、元オリンピック経験者のコーチなどの指導を受けながら強化合宿や海外派遣等を重ねてきました。今回の大会では、ワック

ス向けの専門スタッフを配置するなどハイレベルで取り組んでいたのは日本チームだけのようでした。これまでの大会と比べても、今回の各競技チームが備えたスタッフ体制や選手強化の取り組み結果は著しく向上しています。

今大会では成果を残すことができましたが、ここに至るまでに選手・スタッフには積年の想いがこもっています。4年

前の冬季デフリンピック競技大会が開催直前になってまさかの中止となり、また、2014年2月の全国ろうあ冬季体育大会も豪雪で競技中止になってしまふなど、選手にとっては力を発揮できる場がない状態が8年間も続いていました。当連盟としても選手をケアすべく、関東ろう連盟体育部等の協力で代行大会として2015年1月末に全国ろ



今大会では成果を残すことができましたが、ここに至るまでに選手・スタッフには積年の想いがこもっています。4年

代表選手団総監督)

(あわたつひと 第18回冬季デフリンピック競技大会日本